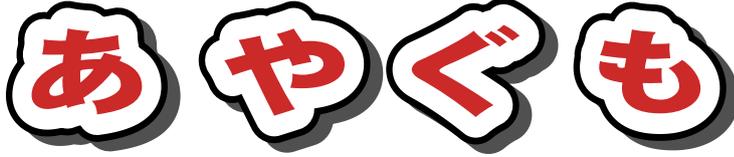




袋井あやぐも学園

袋井市立袋井中学校だより



幼小中一貫カリキュラムにより自主 (Iの力) と (Weの力) を育成する学園

— 自主・協同 —

～夢を追い続ける生徒の育成～

令和4年8月31日発行

2学期がスタートしました。

今年の夏休みは、新型コロナウイルス感染拡大を心配しながらの33日間となりました。制約の多い夏休みであったかもしれませんが、それぞれの生徒が、学習や運動に、リフレッシュにと思い思いの時間を過ごすことができたのではないのでしょうか。

さて、2学期が始まりました。袋井中学校としても、引き続き新型コロナウイルス感染拡大の防止に努めながら教育活動を進めてまいります。新しい生活様式を踏まえた中学校の対応につきまして、御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

< 2学期始業式 > 8月25日(木)



全校生徒が体育館に集まることができないため、リモートによる始業式を行い、各学年の代表生徒が「2学期の目標」を発表しました。代表生徒が述べる言葉の一つ一つに、自分をさらに向上させていきたいという強い思いが感じられました。目標の達成に向かって、生活面、学習面、その他の活動において全力で取り組んでほしいと思います。

校長式辞

33日間の夏休みが終わり、2学期に入りました。新型コロナ感染者が高止まりの状況の中、今日皆さんが元気に登校することができたことをとてもうれしく思います。新型コロナはいつ、どこで、誰がかかってもおかしくない状況です。感染対策を万全にして、コロナ禍の中であっても、学校活動は止めないようにしていきたいと思います。ぜひ、手洗い、換気、マスクの着用の徹底などの対策の継続をお願いします。

1学期の終業式で、夏休みに皆さんに期待することとして2つのことを話しました。

そのうち、「何か一つ自分で計画したことをやり遂げましょう」はどうだったでしょうか。私自身は、読書をすることに努めました。夏休み中に、自分はこれに挑戦して、やり遂げたという経験ができた人は、それが2学期以降の自己を高めることにつながると思います。そのようなことがなかった人は、ぜひこれから何か一つでいいのでやり遂げることに挑戦してください。

続いて、みなさんに報告したいことがあります。1学期に、全校生徒のみなさんがウクライナの人々にメッセージを書いてくれました。夏休み中に、それを袋井市役所の北側にある国際交流協会に掲示をさせていただきました。来週からは、袋井市教育会館にも掲示をしていきます。残念ながら袋井駅での掲示はできませんでしたが、既にメッセージを読んだ多くの人たちにみなさんの気持ちが伝わっています。引き続き、ウクライナの人たちに送る方法を生徒会本部役員とともに探していきたいと思います。いずれにせよ、まだまだ悲惨な惨状が続くウクライナに、一刻も早く平和な日がくることを願っています。

さて、2学期は協力のステージとなります。「協力」という言葉は本校の校訓の「協同」にも通じる言葉です。2学期は学習や運動面を充実させる学期となりますし、本校の2大行事の「あやぐも祭」があります。1学期の「彩雲祭」では、生徒のみなさんがプロジェクト委員や実行委員が先頭になって、生徒のみなさんが主体となって取り組んだ価値ある彩雲祭になりました。「あやぐも祭」も、自分自身や学級や学年を成長させる機会にしてほしいと思います。

そして、大事にしてほしいことがステージの名前の「協力」であり校訓の「協同」の精神です。

合唱では、パート別での練習や全体でみんなが気持ち一つに歌声を合わせることによって、よりよい合唱になります。大切にしたいことは、まずは、自分自身でよりよい合唱にしようと努力することです。その際に、ただ単に「人と同じことをする」ということではありません。合唱が得意な人もあれば、苦手な人もいます。練習をすればするほど、よりよい合唱を目指す中で、クラスメイトと意見の違いが出てくることがあるでしょう。しかし、むしろお互いに意見を出し合うことによって、よりよい合唱づくりへのアイデアや準備ができると思います。同じものを追究しても感じ方は違う。違うのが当たり前なのです。この「人はそれぞれ違う」ということを大事にし、相手の意見を尊重しつつ、「協同」「協力」の精神で取り組んでいってください。そして、私が何度となく皆さんに言っているとおり、あやぐも祭でも、生徒のみなさんが自分たちでやるという主体性を大切にして、互いの意見をぶつけ合いながら、自分たちでよりよい合唱をつくり上げていくことを期待しています。

次に、スタンフォード大学の I.D クランボルト名誉教授が「キャリアの8割は偶然に決まる」「個人の8割は予想しない偶発的なことによって決定される」という理論に関連したお話をします。この言葉は偶然なことによって8割も決定されるならば、何もしくもいいという意味ではありません。

これは古代ギリシャ神話のチャンスの神様、「幸運の女神には前髪しかない」の言葉と同じで、チャンスはやって来たそのときにつかまなくてはならないと同義だと思えます。

クランボルト教授は、よい偶然いわゆるチャンスに出会うために次の5つを挙げています。



- | | |
|------|----------------------|
| 好奇心： | 絶えず学習し、新しいことに興味関心を持つ |
| 持続性： | 失敗しても、あきらめずにやり続ける |
| 楽観性： | クヨクヨせず、ポジティブな思考をする |
| 柔軟性： | こだわりすぎず、謙虚な姿勢で受け入れる |
| 冒険心： | 不安があっても、まずはやってみる |

簡単にまとめると、よい偶然は自分が起こした行動や、周りの環境の変化に合わせた行動を自ら積極的にすることで出会っていくということです。

学校教育目標の「夢を追い続ける生徒の育成」にもつながるのですが、よりよい自分の将来の夢の実現のため、自分を高めるため、偶然起こる「出来事」や「出会い」を常に意識しておくことが必要です。繰り返しますが、自分から行動しないと、よい「出来事」や「出会い」を増やしていく機会は少なくなるということです。2年生は職場訪問がありますね。1年生も3年生も学校内外でのよい出来事や出会いを大切にしていってください。

最後に、長年傷んでいた東門付近の自転車置き場を、地域の方にボランティアで直していただきました。私も少しお手伝いをしましたが、私にとっては、今回ボランティアをしてくださる方との出会いはとてもうれしく、学校の応援をしてくださる方が増えたことを知ることができました。これも一つの貴重な出会いですね。

それでは、みなさん2学期もぜひ自分から行動することはもとより、「好奇心」、「持続性」、「楽観性」、「柔軟性」、「冒険心」の5つのポイントを大切にして、ともに頑張っていきましょう。以上でお話を終わります。